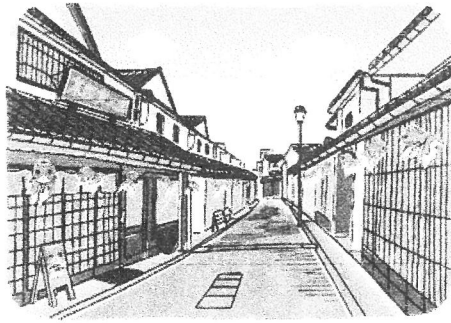


『四十にして・・・』

会長 木阪泰之

新年あけましておめでとうございます。皆様に於かれましてはお健やかに新年を迎えられたことと存じます。私事で恐縮ですが昨年中国地方の伝建地区を時間が許す限りお邪魔させていただきました、「伝健巡り」にハマっております。さて、当町並みが昭和59年、全国で20番目の重要伝統的建造物群保存地区として選定され来年で実に選定40年の節目の年を迎えることになりました。これも偏に町並み保存にご尽力頂いている関係各位、諸先輩方のご努力の賜物と心より感謝する次第です。



ここで今更ながら恐縮ですが少しおさらいをしてみたいと思います。(以下柳井市HPより一部抜粋です。)

●柳井は、瀬戸内交易の要衝として中世の時代から商業都市として栄えました。

第九十三号
柳井市白壁の町並みを
守る会
事務局(皿田治)
TEL 090-1012-4204

江戸時代には、岩国藩の御納戸と称され、その商圏は、近隣の各藩領だけでなく、九州一円から瀬戸内海の各地に及んでいました。その商家の家並みが残る同地区は、柳井津でも最も早く開かれた旧町の西半分にあたり、東西方向の本町通りの両側に続く約200メートルの家並みと、このほぼ中央から南側の柳井川に通じる掛屋小路からなります。明治以降もこの地域は中心街として栄え、現在もお江戸・明治期の商人の家系を継ぐ者が所有し、一部は現在も営業されています。

●「珍しい町の風景だ。近年、こういう古めかしい場所がだんだん少なくなっている。世に有名なのは伊豆の下田と備中の倉敷だが、ここにもそれに負けないような土蔵造りの家が並んでいる。歩いている人間も静かなものだし、店の暗い奥に座っている商人の姿も、まるで明治時代からその慣習を受けついでいるような格好であった。…」

—松本清張『花実のない森』の中に出てくる柳井の風景—

●柳井津の地名が始めて文献に現れるものは、『玖珂郡志』で、足利將軍家が明応9年(1500)12月晦日柳井津に投宿、年が明けて山口に移っている。このころから柳井津は、將軍家に宿舎を提供するだけの立派な港町であった。

●現在の古市・金屋の白壁の町並みは、中世室町時代の町割がそのまま今日も生きていること有名だ。

●白壁しつくい土蔵造り、入母屋の妻入り。玄関を中に入ると短冊型の屋敷はその長さが80メートルにも及ぶものがある。この建造物群の中には、

江戸中期以前の建物が4・5戸のほか、重要文化財の国森家をはじめ、小田家・佐川家など近世柳井商人の活躍を物語る典型的な町家が40数戸もある。

●元禄の昔から瀬戸内屈指の商都として名をはせたのは、この町筋が基点であった。その商いの中心は、柳井木綿、油、和ろうそく、金物、醤油、塩などであったが、交易の範囲は、領内はもちろん、九州五島から大阪にまで及んでいる。

近年、柳井市、近隣町の新成人の皆様が、成人式直後に、柳井市の白壁の町並みで記念撮影をされる光景が風物詩になってきています。この町並みは、ゆっくりと着実に新しいスタイルで地域に根付いてきているランドマークだと感じ、その可能性を信じて疑いません。一寸乱暴な言い方かもしれませんが、他地域比べる必要はなく柳井は柳井の道を行くことが大切だと感じております。今後とも柳井らしい視点からその灯りをともし続けるべくコツコツと活動して参ります。引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

《追記》全国伝統的建造物群保存地区協議会のホームページが2022年10月18日付各地区の伝建台帳が更新されました。こちらのQRコードからご覧になってみてください。



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ タイムスリップ夜回り ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

柳井中学校教諭 高田恵理



(一日目出陣式)

「夜回りの集合場所がよく分かりません、詳しく教えてください。」と尋ねる中学生に、「柳井小学校から白壁通りに向かって坂道を下って、観光案内所の向かい側よ。その日だけに出てくる『本陣』の提灯と、その日だけ開かれる扉を見つけて。」と答えると、彼らはまるで宝探しをする時のような表情をした。当日、彼らは「秘密の提灯と扉」を見つげるため、早々とやってきた。「提灯と扉」から中に入った。彼らは、真っ白な漆喰の壁と、黒く力強い梁のコントラストが美しい蔵の中



(二日目出陣式)

に案内された。「まるで秘密基地みたいだ。」
夜八時、最初の夜回りに出発。手元には「五穀豊穡」と書かれた拍子木。「五穀って何？」という中学生の質問に、武居さんが早速答えてくださる。この拍子木の古い文字に、昔これを書いた人の祈りを感じ、その時代に一気に引き込まれるような気がしてくる。白壁通りに響く拍子木の音は、今も昔もきつと変わらない。優しい金魚提灯の明かりで、石畳の白壁通りから小路を歩くと、まるで三百年くらいタイムスリップしたような気分だ。宝来橋の火伏地蔵様をみなで拝むと、お地藏さまも微笑んでおられるように見えた。

こんな幻想的で美しく、ワクワクするような体験をさせていただいて、「白壁の町並みを守る会」のみなさまに心

から感謝している。
夜回りの夜の美しさと感謝を込めて一句、

『星冴ゆる商都柳井の夜番かな』

ボランティアとしてご参加いただいた柳井中学の皆さん。以下敬称略。
柳井中一年 武富蒼空、田中晴渡、中島悠泰、星野由翔、
柳井中二年 三浦涼香、中重夏音、中上汐音



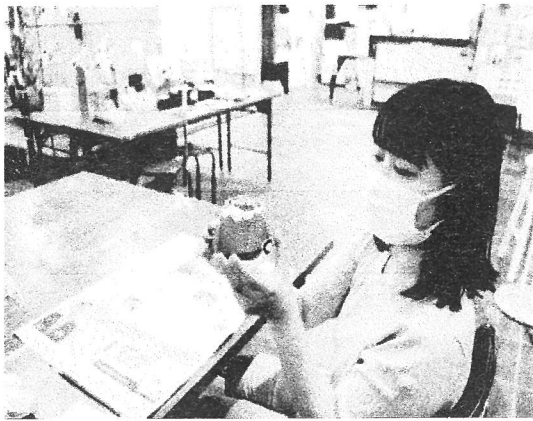
(二日日本陣前で)

寄稿 「やない気分」のご提案

山口県立大学 国際文化学部 文化創造学科 宮本光里
グラフィックデザイン研究室

私は現在、山口県立大学 国際文化学部 文化創造学科でグラフィックデザイン研究室に所属しています。大学での学びの中、生まれ育った柳井市の素晴らしさが多くの人に伝わるようなモノ・コトのデザインしたいと思ったことをきっかけに、2022年の4月から「柳井市の活性化に資する新たな地域ブランドの提案」という研究テーマのもと卒業研究に取り組んでいます。

調査や分析を通じて、新たな柳井の地域ブランド「やない気分」を提案することとしました。



調査のため金魚ちょうちん作り体験をする写真

「ちよつと柳井に行きたい気分だなあ」という気軽な気持ちで何度も訪れてもらい、多くの方に愛される地域になるようにという思いを込めまし

た。柳井の魅力を伝える媒体として、観光ガイドブックやポスター、お土産袋のデザインも行いました。

これらの作品ですが、2023年1月14日から2月12日にかけて、柳井市町並み資料館にて展示させていただく機会をいただきました。展示では、地域ブランドの解説パネルや制作した観光ガイドブック、観光ポスター、お土産袋などをご覧いただくことができ、ガイドブックは少量ではありませんが配布もいたします。



(制作物の写真)

この研究を進めるために多くの柳井市の方とお話を重ね、改めて柳井市の人の温かさや観光資源の豊かさを感じると共に、この素晴らしい地域をもっと愛さる地域にしたいと強く感じました。「やない気分」を通じて、少しでも柳井市の発展に貢献することができていれば嬉しく思います。

今期新人会員からのメッセージ

白壁の町並みを守る会相談役 松林日菜子

初めまして。今年度より柳井市教育委員会生涯学習・スポーツ推進課で文化財業務を担当している松林と申します。

私の自宅は白壁の町並みの近所にあり、こ



もながらに歴史ある特別な雰囲気を感じていたように思います。

先日仕事でしらかべ学遊館に伺ったのが、ちょうど柳井小学校のしらかべマラソン大会の日で、一生懸命走る子どもたちと声援を送る保護者、地域の方の姿を目にしました。しらかべマラソン大会は私が小学生の時に始まった行事で、寒い中町並みを駆け抜けたことを懐かしく思い出しました。また、このような思い出の積み重ねによって、白壁の町並みは愛され続けてきたのだと気が付いた出来事でもありました。大学生活を経て久しぶりに柳井で生活し、文化財の仕事を始め、美しい町並みが多くの人の努力によって今日まで守られてきたことを実感しています。白壁の町並みを守る会をはじめ、建物所有者の方、町並みのことを想って協力してくださる方々に本当に頭が下がる思いです。未熟な私ですが、白壁の町並みの保存活用に努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

柳井の地図絵図

岸田稔明

第三十六回 玖珂郡柳井町字馬皿耕地

整理地区附属図面(山口県文書館蔵)

今回は、山口県文書館に所蔵の「玖珂郡柳井町馬皿耕地整理地区」から、耕地整理前後の図面を取り上げる。

柳井津駅(現柳井駅)が開業した明治三十(一八九七)年前後から、柳井津町は人口の集中が進み、隣接する古開作村や柳井村も人口が増加した。この三町村の人口の総数は、明治十六(一八八三)年の一〇五七〇人から、明治三十五(一九〇三)年には一二五九一人へ増加した。

全国的にも都市への人口集中が進み、米穀の需要が増加したため、食糧増産の必要性が高まり、明治三十二(一八九九)年に耕地整理法が制定された。耕地整理とは、耕地の効率的利用と生産性を高めるため、土地の交換分合・



区画整理・灌漑及び排水施設、道路・畦畔・溝渠の整理などを行うものである。柳井津周辺でも、法制定以後

耕地整理事業が盛んに行われた。馬皿では、三町村合併後の柳井町で最も早い明治三十八(一九〇五)年に耕地整理が行われた。現在の下馬皿・北町地区で、柳井小学校の南側から柳井学園高等学校グラウンドの北側までが対象となった。

この地区では、享保十六(一七三一)年に柳井川が現在の位置に付け替えられ、柳井川の跡地が農地に転換されたまま残っていたが、耕地整理により、農地の形が整えられた。なお、関係土地所有者は六十四名、総面積は三十二町五畝(約三十二・二ヘクタール)である。また、昭和六(一九三一)年に、西に隣接する藤田地区でも耕地整理を実施している。

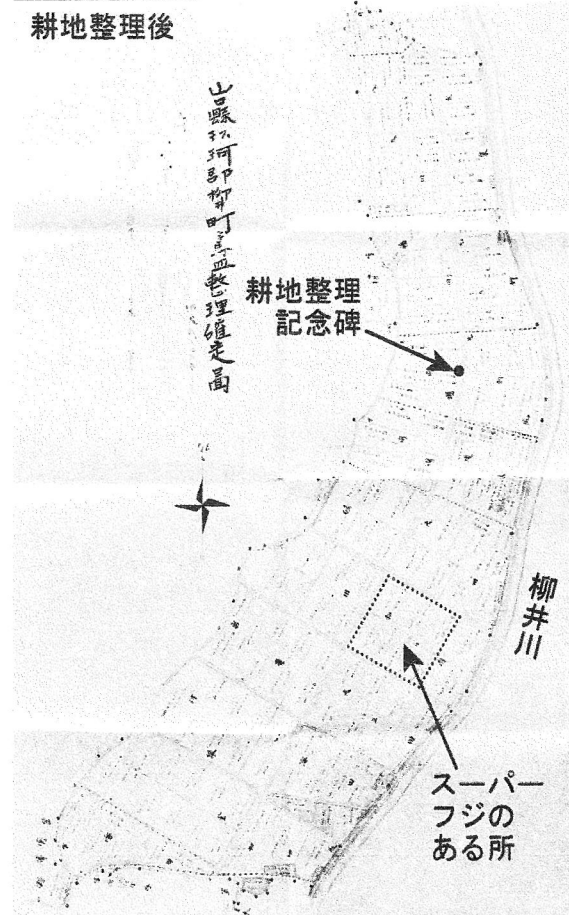
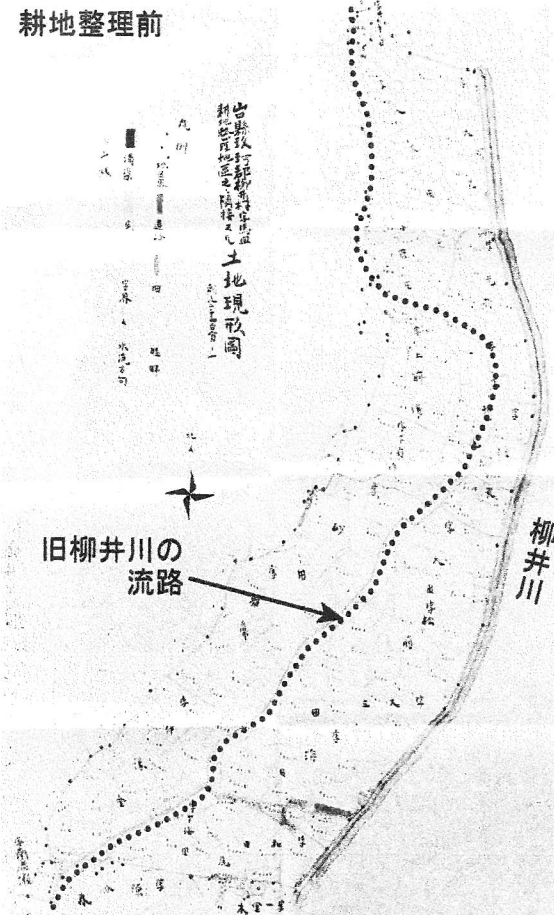
昭和二十九(一九五四)年四月、先人の偉業を称えるため、「五拾周年記



耕地整理完成碑

耕地整理前

耕地整理後



念耕地整理完成碑」が建立された。スーパーフジ北側の道路沿いにあり、碑の裏側には、耕地整理当時の事業経過が刻まれている。【玖珂郡柳井町字馬皿耕地整理地区附属図面(山口県文書館蔵)】主要地点等を加筆

商都柳井の歴史 その廿二

松島 幸夫

柳井津商人の心(二)

一生に一度はお伊勢参り

今回は、柳井津の商人たちが恵比寿神に商売繁盛を祈願したことを紹介しました。さて今回は、「お伊勢参り」です。

八百万の神の頂点に位置する天照大御神を祀っている伊勢の大神宮は、日本国内に存在する膨大な数の神社の総元締め役を果たしています。自然の中で最も大切な太陽を神格化し、天皇の先祖につながると考えたからでしょう。信心深かった江戸時代の柳井津商人たちは、はるか遠くの伊勢にまで出向きました。

お伊勢参りに出かけたのには、伊勢大神宮の高い格式だけでなく、別の要因がありました。御師(おし)の活躍です。御師が伊勢大神の御利益を日本各地に宣伝して回ったので



す。柳井にも御師がやって来て、伊勢信仰を伝えました。御師とは伊勢大神宮の門前で旅館を経営する人々なのですが、伊勢神道に

深く精通しており神職の性格を帯びていました。彼らが神職姿で全国各地に出かけ、伊勢信仰を広めたのです。柳井では代田八幡宮や土穂石八幡宮などの神前で祝詞をあげています。柳井津の商人が伊勢へ参詣した際には、柳井へ来た御師の旅館に泊まりました。参拝の仕方を教えられ、護符のお札を御師から受け取りました。参拝用の装束も貸してくれ、門前歌舞伎などの入場券も入手してくれ、観光地への引率もしてくれました。金さえだせば御師は至れり尽くせりのサービスをしてくれたのです。

お伊勢参りは信仰心を大儀名分にしたものの、芸能に触れるなどの娯楽が加わっていたものですから、一生に一度のお伊勢参りは誰もが憧れました。経済力のある柳井津豪商が記した旅日記には、帰路に有馬温泉などに逗留したことが記されています。温泉娯楽も、伊勢大神の御利益であったのです。

貧しい人たちも、野宿をしながらお伊勢参りをしたようです。「ひしゃく」を持って旅をすると、当時はお伊勢参りと判ったようので、沿道の篤志家が握り飯や路銀などのお布施をしてくれました。参拝者に施すことによって、自分たちも御利益を授かると考えたようです。

柳井津町の商人たちは、伊勢からの御師を泊める専用の宿舎を町内に建てていました。御師の勧めによって、町内には幾つかの伊勢講が結成されました。伊勢講は年に数回の寄合をし、その都度金を出し合いました。貯まった資金で順番に代表者が伊勢に向かったのです。代参者は伊勢の護符やお土産を持ち帰っ

て講人へ配りました。護符とは神の靈験を文字や絵に刷り込んだ紙で、受け取った家では神棚に貼り付けました。柳井津の町内では、大神宮社を伊勢から勧請して神殿を建てました。神殿は町内を数回移動していますが、最終的には佐川醤油醸造所の北側に移設され、現在も存在しています。

ところで柳井は俳諧が盛んな場所です。正風美濃派の柳井分社がありました。二葉連など多くの俳諧グループが結成されており、多くの老若男女が俳句を詠んでいました。彼らは自作の俳諧を柳井津の大神宮社に奉納しました。俳諧を奉げて伊勢神の心を慰めるとともに、自らの力量の向上を祈念したのでです。大神宮信仰は、柳井の先人たちの心の中に深く入り込んでいました。



(柳井津の大神宮社)

資料館便り

『町並み資料館で』

沖堀宏美

あけましておめでとうございます。本年も
よろしく願いいたします。

早いもので町並み資料館に出勤させていた
だくようになって半年が経ちました。

最初は「私に勤まるかしら？」と不安もあり
ましたが、いろいろな方の協力をいただいて
何とか勤めることができました。

白壁の町並みに住まうようになって40年にな
りますが、町並みに資料館に勤務を始めて、
いろいろな事に触れることで、改めてこの町
の知らないことが多いことに驚きました。こ
んなことではいけないと、この機に「むろや
の園」「しらかべ学遊館」「湘江庵」などを
学しなおしました。「松島詩子記念館」も初
めて見学し、そこに展示されている貴重な展
物に触れて、多くの方にご覧いただきたいな
と感じました。

また「金魚ちょうちん」の由来についても、
なんとなく知っていましたが、キチンと学び

直すとその歴史の奥深さに感銘を受けまし
た。

「白壁の町並みに住んでいるの。」という
と皆さんに「良いところにお住まいですね。」
と言っていたのですが、内心は「そんな
のかな？」と思っていました。でも資料館
のお仕事を手伝うようになって、いろいろ
なことを学び直すことで白壁の町並みの良
いところを再発見することできたと同時に、
いままでも無関心だったことを反省しまし
た。もう一つこのお仕事に就いて良かったこ

とが、全国から来柳されるお客様に出会う
ことができ、その方々から各地の珍しい
お話を聞くことができることです。柳井か
らあまり出ることがない私にとつて、その
お話は楽しくまた刺激的です。子供の頃に
住んでいた岡山の方とお話した時は通っ
ていた小学校や遠足で行っていた後樂園の
話がでて懐かしさで感無量でした。いろい
ろなところから柳井を指して来ていただ
いた方々に改めて「ありがとうございます」
とお礼を伝えたい気持ちです。

これから資料館のお仕事を通じてこの
町並みの良いところを多くの方に伝えるこ
とができるように努めていきたいと思いま
す。

【編集後記】

★Happy New Year! ロシアのウクライナへの軍事侵攻以来ほ
ぼ一年が経過。極寒の中、寒さに震える人々のことを思うと
やり切れません。独裁者の暴走に対して国際社会が如何に無
力であるかを感じざるを得ません。

★コロナ感染は第8波に突入した模様で当山口県は1月5日
5,097人と過去最高の感染者を記録したばかりです。

★世の中は暗い話題で満ちていますが我が町並みかわら版
には明るい兆しが・・・。ややマンネリ化した紙面に新たな
投稿者しかも今回は3名の会員外の女性投稿者が初登場。

これはさすが若手の武居編集長の手腕と感心。

★木阪会長の年頭所感「他地域と比べる必要はなく柳井は柳
井の道を行くことが大切」心にしみる。同感です。

(事務局 皿田)

令和4年度第3四半期 柳井市町並み資料館入館者数

	令和4年/10月~12月	令和4年12月現在累計
町並み資料館	2,730	306,837
	前年同期比 89%	
松島詩子記念館	693	111,120
	前年同期比 89%	